1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300011		
法人名	有限会社 富喜		
事業所名	グループホームありがとう		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1020-2		
自己評価作成日	平成24年 8月 14日	評価結果市町受理日	平成25年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることができるよう、入居者様の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行います。入居者様が、真実願っていることの一つでも多くの明かりが灯せるようそれぞれ思いやりをもって、安全でその人らしく希望を持って自立した生活が営めるよう支援しています。

また、入居者様一人ひとりの人格を尊重し、入居様がそれぞれの役割をもって家庭的な環境の下で、日常生活を送ることができるよう配慮して行い、入居者様が真実願っていることの一つでも多くの明かりが灯せるようそれぞれ思いやりをもって、家庭的なやり方で、安全でその人らしく希望を持って自立した生活が営めるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修や法人研修への参加の機会を提供される他、毎月1回、全職員参加で実施しておられる内部研修では、年間計画のテーマに加えて、その時々に必要な課題での研修を行われるなど、研修の内容を充実させて職員の質の確保や向上に向けた育成に取り組まれています。内部研修には全職員が参加出来るように法人他施設からの応援職員を派遣して支援され全ての職員が等しく働きながら知識や技術を習得できるように支援に努めておられます。利用者一人ひとりの思いや意向を把握され、本人の思いを反映させた介護計画を立てられ、アセスメントやモニタリングを繰り返しながら認定期間や利用者の状況変化に応じた見直しをされ、現状に合わせた計画を作成しておられます。利用者は毎朝、その日にしたいことを1日の目標として立てておられ、職員は場面づくりを工夫され、実現に向けての支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を理解し、普段からの入居者への声掛け・介助時に実践している。	理念を玄関に掲示し、朝礼時や月2回の会議時に唱和、共有し実践につなげている。利用者一人ひとりに合わせた声かけをし、お互いに「ありがとう」と言える信頼関係が築けるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンや福祉の市などの地域の行事に積極的に参加している。	事業所主催の「ありがとう祭」や事業所が場所を提供している地域の「ふれあいサロン」の他、社会福祉協議会主催の市などで地域の人と交流している。ボランティア(コーラス、猿まわし、手品、フラダンス、大正琴、詩吟、ハーモニカ、腹話術等)の来訪や定期的な来訪(お茶会、法話)、高校生やソロブチミストのボランティアの来訪があり利用者と交流している。日常的な散歩や近くのスーパーでの買物などでも地域の人とふれあい、野菜や花をもらうなど地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、ボランティアによる交流会、デイサービスありがとうに通所利用者との交流会、ありがとう祭り、毎日の散歩等積極的に参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が評価の意義を説明した後、自己評価表を全員に配付し記入してもらい、それを代表者と管理者、計画作成者がまとめている。外部評価結果をもとに具体的改善に取り組んでいる。	朝礼時や会議において評価の意義や項目の理解について説明し、朝礼、昼礼、終礼時のミーティングや月2回の会議で話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果について話し合い、評価への取り組みや運営推進会議メンバーを1名増やすなど、出来ることから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の開催で入居者・行事等の近況報告、風水害・火災避難訓練等の報告等の実施	民生委員を1名増やし、2ヶ月に1回開催している。行事報告や入居者の状況を報告し意見交換をしているが、参加者からの意見は少なく意見を活かすまでには至っていない。	・会議の進め方、記録方法と活かし方の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類等は高齢福祉課に直接持っていく、常日頃からお互いに情報交換等をするように配慮している。	運営推進会議の他、市の担当課に出向いて相談等をし、助言を得たり情報交換をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長が地域包括等が開催している研修等で正しく学び、職員と一緒に検討し理解をして実践している。	管理者が研修を受け、受講した内容を全職員とミーティングの中で話し合い正しく理解した上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては業務の中で注意している。玄関には施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待防止の研修を行い、虐待をしない・させない・見過ごさないを考え日々サービスをしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や書籍にて職員は理解しているが、現在の入居者の中では必要と思われる人はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時を含め、本人・家族にそのつど十分な時間をかけて丁寧に説明を行い理解納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも相談・意見等を言って頂けるような環境を整えています。	電話や面会時、介護計画変更時等に家族から意見や要望を聞いている。契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議を設け職員の提案を検討し、業務に反映できるものは反映させています。	全職員参加の月2回の会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、第三者機関による職員アンケートを実施し、職員の意見を把握している。夜勤職員の不安を解消するため危機管理システムの導入をするなど職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の状況を勘案し、休日確保しやすきように配慮するなど働きやすい環境作りに努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、職員の希望等にも配慮して進めている。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて参加機会を提供し、勤務の一環として受講できている。内部研修は月1回、テーマを決めて全職員の参加で30分程度実施している他、テーマ以外でもその時々に合わせて課題での研修を月1回行っている。全職員が研修に参加出来るための支援として法人他施設からの応援の職員を派遣している。新人職員にはOJTの体制で支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表又は管理者は県内外の勉強会に参加し、他施設と情報交換や交流を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始より、ご本人ご家族のご意向、思い、不安等を話せる環境を心掛け、スタッフ全体でアプローチし、不安の軽減、関係づくりに努め、不安のない生活に向けて支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人や家族より、在宅での様子や困っていることなどをしっかり聞き、要望をこれからの生活で実現できるようアプローチや関係づくりをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いの中からニーズを見極め、自宅と同様の毎日が送れるよう柔軟な対応をしている。ご家族、ご本人にとってより良い環境があれば、他事業所等と連携し、他のサービス機関につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHの一員として、職員、利用者とも生活を通して、関係づくりに努めて、毎日の目標を基本的に本人に決めて頂き職員が達成可能に向け支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を特に設けず、いつでも面会が出来る環境にしており、ご本人とご家族の関わりがいつでもとれるよう支援している。また、ご様子を文書でお知らせし、面会では分かりにくい変化もお知らせしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンの会場として施設を使用したり、地域行事に出かけたり、地域の中での生活を維持できるようサポートしている。受診や買い物には、出来るだけご家族とともに外出し、不安な生活を送れるよう支援している。	利用者と馴染みのある人や場所を利用者の昔話や家族から聞くなど、アセスメントして支援している。かかりつけ医への受診や行きつけの美容院の利用、馴染みの商店での買物などの支援をする他、家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、墓参り、法事や葬式、結婚式等への参加を支援している。知人や友人の来訪もあり、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新し方が入居された時には、席替えを行い誕生日会などで親睦会を計り、入居者同士の関係づくりやつながりを深め、よりよい環境づくりを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護保険を含めた総合的な相談を受けることが出来ることを伝え、継続的な関わりが持てるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中にある要望や希望を見落とさず、朝、夕の申し送りや会議でスタッフ全体で把握するよう努力している。困難な場合でもご家族からの情報をもとに、ご本人の視点で検討している。	フェイスシートや基本情報を活用する他、日々の関わりの中での利用者の言葉や言動を個人記録に記録して朝夕の申し送りや会議で共有し、思いや意向の把握に努めている。利用者がその日にしたいことを毎朝、聞いて1日の目標として立てて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、馴染みの関係を築く過程でご本人さんやご家族の聞き取りのほかにも、毎日の生活の中にある発言、他者との会話から生活歴を把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や睡眠、入浴等一人ひとりの生活パターンを把握し、一人ひとりに生活を大事にしている。また、出来ることは続け、日常生活での手伝い自力可能なことは推進し支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関して、担当者会議やスタッフ会議を通して、話し合いの場を設けている。サービス導入時には、ご本人かご家族にもサインを頂戴し、了承了解を得ている。毎月のモニタリングを元に柔軟な計画作成を心掛けている。	本人や家族、看護師、医師の意見や朝夕の申し送りで話し合ったことを参考にして担当者会議で話し合い介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、3ヶ月毎の担当者会議で話し合い、見直しをする他、認定期間や利用者の状況に応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間記入の個別記録をもとに、日々の暮らしの様子、例えば、食事、水分摂取量、排泄状況等職員全体で把握、確認している。朝夕の申し送りで気づき等口頭でも補足している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族のご要望をできる限り柔軟に対応し、施設の中に家族が休める場所を設けている。通院等の支援も医療連携のもと、不安ない毎日が送れるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で安心して生活できるよう、地域の方、ボランティア、消防署等と協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活同様、かかりつけ医への診察へ家族やスタッフと出かけることが出来る関係づくりをしている。また、緊急時の対応を協力医やかかりつけ医と確認しており、安全な対応が図れるよう支援している。	利用者のかかりつけ医や協力医療機関への受診支援をしている。協力医療機関から月に1回の往診がある他、かかりつけ医が2週間に1度往診している。往診時には家族が立会い、医師から説明を受けている。緊急時の対応など適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいつでも対応できる環境におき、介護職は、日々の変化を伝え、指示を得ている。看護師も主治医より必要に応じて指示を得ている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、ホーム長、看護師がカンファレンスには必ず同行し、主治医からの指示、病棟での様子等情報収集につとめている。入院中には、ケアマネやホーム長も適宜、病状観察に出向き情報収集に努め、病院ご家族と連携をとっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご高齢であり、重度化した場合のことなど、ご本人のお気持ち等確認しながら、ご家族と話し合っている。協力医や主治医とは、急変時いつでも対応できるよう連携をとっている。	重度化した場合の対応に係る指針を契約時に家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は家族や医師、関係者と話し合い方針を共有し支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、職員全員が手順どおり行えるようになっている。事故報告書は会議でも取り上げ再発しない環境になる様努めている。ウイルス対応等は看護師が指導することにより、分かりやすく実践できるよう指導している。	ヒヤリはっと報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、朝礼、昼礼、終礼時のミニ会議で検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。普通救命講習を全職員が受講している他、応急手当や初期対応の訓練を看護師の指導で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成し、年2回防災避難訓練を行っている。地域にもお声かけをし、訓練に参加してもらっている。	年2回、夜間想定を含めた防災避難訓練を地域住民の参加を得て実施している。地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との関係が成熟し、お互いに慣れてきて、年長者として、経験豊富な方々であることを忘れず、お声かけには、注意している。	マニュアルがあり、内部研修を実施し、利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。利用者の個人情報については取り扱いに注意し管理している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の積み重ねの中で、信頼関係を構築し、何気ない会話の中のニーズを見落とさないよう努力している。個別に、買い物の日等の目的に応じた外出時間、職員がゆっくり関わられる時間を持っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等においても時間を決めず、一人ひとりに柔軟に対応している。入浴も毎日入浴することができる環境にしており、ご本人の体調や気分を確認しながら対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にも施設に出向いてサービスしてもらったり、パーマ等もかけに町の美容室に出かける支援をしている。衣類も自身で選び、アクセサリー等も選んでつける事が出来るようお声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理の下ごしらえや後片づけ等一人ひとりの力に合わせ職員と一緒にいき、楽しい食事なる様にしている。	週5日の昼食は法人からの配食を利用している。朝食、夕食、週2回の昼食は事業所で食事づくりをしている。利用者の好みを聞いて利用者と一緒に献立を考える他、食材の買物や調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど利用者の出来ることを一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、同じ物を食べ、会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。弁当を作って戸外で食べたり外食をするなど、工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは入居者の皆さんと一緒に考え、好みにあったものを提供できるよう支援している。また、水分量、食事の摂取量等は不足しないよう、一日を通して、職員が把握し、記録し、適宜提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、パタカラ等の口腔体操を職員と一緒にに行っている。食後の口腔ケアにおいても、毎回、職員見守り支援のもと、口腔ケアをしている。夜間は、義歯の洗浄を行い、保管している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄の把握をしている。尿意、便意等あらわれる方が多いため、トイレ誘導し、安全に排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、タイミングを図って本人を傷つけない声かけでトイレでの排泄が出来るように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎日ヨーグルトを提供したり、食物繊維を多く含む食材を食事に取り入れる等気をつけている。ただ、糖尿病に起因する病状の方や食品アレルギーの方も入居しておられるため、個々に対応し、食事だけでなく、運動等取り入れ働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できる環境にしており、本人の意思や体調で柔軟に対応できるようにしている。個浴の特殊浴槽のため、身体状況が不安になられた場合でも、安心して入浴できる環境にしている。	入浴は13時30分から17時まで毎日可能でゆっくり入浴できるように支援している。一人ひとりの希望やタイミング、状態に合わせて入浴が楽しめるよう工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具等も馴染みの物を持ち込んでもらい、安心できる居室作りをしている。日中の活動も体調に合わせて参加出来るよう支援し、安眠、良眠出来る環境づくりを心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の情報を把握している。入居者が体調、服薬等に不安なことは、直接看護師が入居者に説明し、安心して服用できるよう支援している。服薬も職員が必ず確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が張りのある充実あるものになる様、生活歴や今まで役割等を引き続きできるよう季節毎の花植え、花壇等の手入れや家事活動、レクレーションや認知症機能低下予防の為の学びを取り入れている。	ぬり絵、カルタ、折り紙、計算、漢字、パズル、写仏、習字、読書、縫い物、短歌、俳句、日記をつける、カレンダー作り、体操、しりとり、カラオケ、ボール遊び、紙芝居などを楽しみ、食事の準備、後片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯たたみ、雑巾作り、新聞でのゴミ箱作りなど利用者一人ひとりが活躍できる場面を多くつくり、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等に応じて散歩や買い物ドライブ等に臨機応変に出かけることが出来るようにしている。ご家族との時間も大切にもらい、お孫さんの結婚式や家族旅行、外食等、施設が提供するだけでなく、家族と一緒に自宅への一時帰宅など希望や要望に応じられるように支援している。	散歩や買物、季節毎の花見、神社への初詣、地域行事への参加など戸外に出かけるよう支援している。家族の協力を得て外出、外食、外泊などの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や、ご家族と相談しながら、お金を預かっている方もあるし、自身で管理しておられる方もある。買い物の際に、安心して使えるよう見守り支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、電話等が使用できるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースでは、季節感を感じられ、穏やかに過ごせるよう切り花等を入居者の皆さんに生けてもらったりしている。清潔感のある環境を心掛けている。	木のぬくもりのある共用空間は広く明るく、温度、湿度、換気、音などに配慮している。広いスペースには、季節の花が生けてあり、壁面の風景画やアイランドキッチンからの音や匂いは家庭的な温もりを感じさせる空間となっている。テレビの前や、外庭の見える場所にもソファや机、椅子が配置され、利用者がそれぞれの居場所でくつろげるように工夫できている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が座れるソファースペースで思い思い過ごされたり、読書をしたり、話したりとリラックスできる環境づくりをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる居室になるよう、馴染みのものをご家族やご本人に持ち込んでもらっている。	タンス、冷蔵庫、机、椅子、テレビ、生活用品など使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、家族写真や自分の作品、ぬいぐるみなどを飾って利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の皆さんが、安心して楽しく生活できるよう、生活環境を整えるよう努めている。目印等を邪魔にならないよう配置し、尊厳を持って生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ありがとう

作成日: 平成25年 1月11日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	<ul style="list-style-type: none"> 参加者からの意見が少なく意見を活かすまでに至っていない。 会議録の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 会議での活発に意見を出していただくように進めていき会議内で出た意見を活かせるようにする。 会議録は正確に書き留めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議開催の度にテーマを決め意見が活発に出やすくなるように進めて意見を活かせるようにする。 会議録はレコーダー等を使用して正確に記録を残せるようにしていく。 	12か月間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。